ROTARY CLUB OF HEKINAN WEEKLY

碧南ロータリークラブ週報

第２６４１回例会 平成２５年５月２２日(水)

●会長 黒田 昌司
●幹事 木村 徳雄
●会場監督(SAA) 新美 雅浩

■例会日　毎週水曜日　12:30　■例会場　碧南商工会議所ホール
■事務局　碧南商工会議所内　〒447-8501　愛知県碧南市源氏神明町 90
TEL<0566>41-1100　FAX<0566>48-1100
ホームページ：http://www.hekinan-rc.jp
E-mail:info@hekinan-rc.jp
■会報委員　菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴

2012-2013 年度　国際ロータリーのテーマ



●斉　唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のメニュー

和風弁当　大正館

●本日のお客様

澤田酒造㈱　代表取締役社長　澤田　研一様

会　長　挨　拶


黒田昌司会長

本日５月２２日は禁煙の日でございます。２が白鳥（スワン）の形をしておりまして、吸わん吸わんという事だそうです。禁煙すれば果たして万々歳か、という事で話をしたいと思います。

今年の碧南市の予算が約１５６億５千万です。その中でタバコ税が４億４千万です。比率だと約３％です。市の財政としても、市内でタバコを買う事が重要じゃないかと思います。

最近各国の学者さんが、禁煙したけど果たしてよかったのか、という内容で議論をしております。経済学者の森永卓郎氏は、禁煙率が上がってきたにも関わらず、肺がん率も上がっていると言っております。タバコをやめると動脈硬化疾患のリスクが減る、と言われておりますが、各国の医学会で出ておりますのが、タバコをやめると食欲アップや代謝ダウンになり、食欲アップで体重が増えると結局動脈硬化のリスクが出て来て、タバコをやめても意味がないそうです。産業医の方や国立がんセンターの報告でございますが、禁煙による鬱症状が非常に増えてきたそうです。タバコを吸うと、副交感神経が活性化するのでストレスが和らぎますが、禁煙しますと自律神経のバランスが大幅に狂いますので、鬱になるそうです。

冒頭で申し上げましたが、税収のためのタバコ、健康のためのタバコ、これをあえてやめるのがいいのか悪いのかを皆さんに問題定義を差し上げたいと思います。

幹　事　報　告


木村徳雄幹事

- 例会変更のお知らせはございません。
- 国際ロータリー日本事務局より、事務所移転の案内がきております。旧奉仕室が、５月２７日よりクラブ地区支援室に変更になりました。
- 国際ロータリー第２７６０地区２０１３～２０１４の地区大会実行委員会事務局 開設のご案内があり、名古屋昭和ロータリークラブさんがホストクラブで、記載の通りですのでお願い致します。

委　員　会　報　告

＜出席奨励委員会＞

総会員数 65 名（内出席免除者 10 名の内出席者 10 名)出席者 53 名	
出席対象者　56／63 名	出　席　率　　88.89%
欠席者 12 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率　96.88%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

＜ニコボックス委員会＞

鈴木　並生君　安協の定時総会が無事終了しました。今後ともご支援よろしくお願い致します。

小笠原良治君　気力・体力すべての生命力が日々衰えて行くおのれがなさけないです。来世への試練やむなし、しかたなし！

木村　徳雄君　世界遺産　中尊寺に行ってきました。仙台の夜も楽しみました。皆さん一緒に行きましょう。

清澤　聡之君　本日の講師　澤田研一氏を紹介します。

鈴木　泰博君　先日は、黒田会長、亀山様に大変お世話になりました。昨日は平岩様にも大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いします。

卓　　話

「知多と西三河の酒造り」　澤田酒造㈱　澤田研一様


澤田研一様



本日はお酒の歴史のお話をさせて頂きます。

西三河は醸造業が盛んな地域でございまして、現在もお酒やみりんや焼酎など盛んです。知多半島も大変盛んでして、明治４年の記録を見ますと、２２７軒の造り酒屋がありました。全国でも２番目でした。なぜそんなに栄えたのに、現在では少なくなってしまったかをお話させて頂きたいと思います。

知多半島の人がお酒が好きで栄えたというわけではなく、船に乗せて江戸に運んでいたからです。大量に物を運ぶ場合、海運の出来る場所でないと産業が発達しないという背景がございました。江戸時代の前半は小さな酒蔵しかありませんで、元禄１０年から突如として知多半島の酒造業が大発展していきます。幕府や尾張藩の財政は厳しくなる中で、酒屋が儲かっているという事で、元禄９年に全国の酒屋に立ち入り調査をしまして、各酒屋の生産体制をチェックしまして、元禄１０年に五分の一造り令という命令が出ております。去年の五分の一しか作ってはいけない、という内容でした。その後、実際に半分ぐらいまで生産数が減りました。供給が減りまして酒の値段が高くなるわけですが、飲みたい人は飲むのでその上がった分は税金として頂きます、という事で役人が取っていきました。酒株という酒を作っていい免許があったりと、近代の税制の基盤が出来たわけでございます。

逆を言いますと、株がない人は酒が作れないので産業として成り立つようになりまして、そこでぐんぐん伸び始めたのが灘の方々です。西宮地区の人はお酒を作る技術力も高かったので、江戸の人に好まれました。灘の人が船で運ぶ途中で知多半島に寄るわけですが、すごく羽振りがいいので、知多の人達が私たちも江戸まで船を出させてほしい、と尾張藩に嘆願書を出しました。それが受理されて、半田や常滑などに船を出してもいいと許可が下りました。

また、江戸に酒を売るには巨額の金が必要だったのですが、尾張藩は政治的なコネクションを使って、酒を江戸に売る許可を得られました。それが元禄１０年の事です。

ただ、このまま右肩上がりになったわけではなく、約５０年毎に波がありまして、その中で生き残った酒屋は多くありません。政治的な動きで左右される業界でして、米の値段に左右されます。秋の米の収穫量が分かってからでないと、酒を作ってはいけませんでした。

教科書で、天明の飢饉というのがありますが、夏がすごく寒くて米が育たず、３年ほど大飢饉がきました。しかしその後、天明の大豊作というのがございまして、飢饉のリバウンドでたくさんの米が収穫できました。

私が酒屋をやり始めた際は愛知県は、１００を超える酒屋がございましたが、現在では４０を割っており、生産数量も随分落ちてきております。地元の常滑の人に愛される酒を作っていきたいと思っております。

次回例会案内

平成２５年６月５日（水）卓話「日本株市場の大転換」

東海東京調査センター　投資調査部マーケットアナリスト

近藤克洋氏